

平成24年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	やや少	やや少
	うどんこ病	やや多	やや多
	褐斑病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	やや多
	コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	コナジラミ類	並	並
	ハモグリバエ類	少	少
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	やや多	やや多
たまねぎ	ネギアザミウマ	やや少	やや少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	並	並
ブロッコリー	黒腐病	やや多	やや多
	べと病	並	並
	コナガ	少	少

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は0.7%(1.2%)、発生圃場率は、9.1%(25.0%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は9.5%(3.4%)、発生圃場率は45.5%(47.9%)であった。

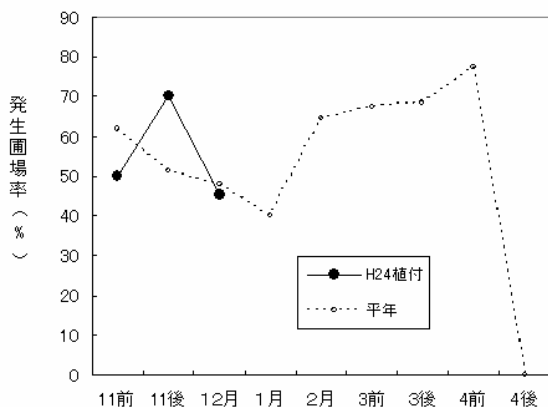


図 キウウうどんこ病 発生圃場率の推移(巡回調査)

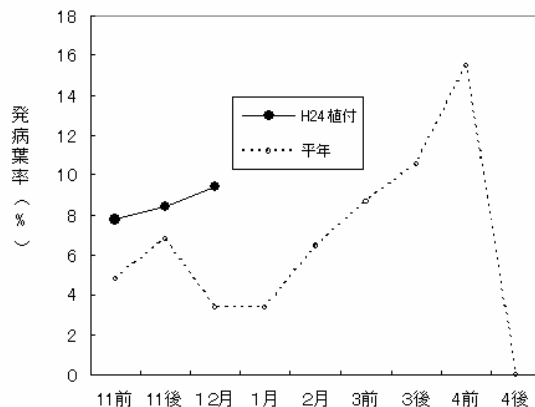


図 キウウうどんこ病 発病率率の推移(巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- イ 薬剤耐性菌を生じるおそれがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病率率0.6%、発生圃場率15.6%)。

4. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生率は1.5%(0.1%)、発生圃場率は18.2%(4.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ミナミキイロアザミウマは、黄化えそ病を媒介するので防除を徹底する。薬剤抵抗性の発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

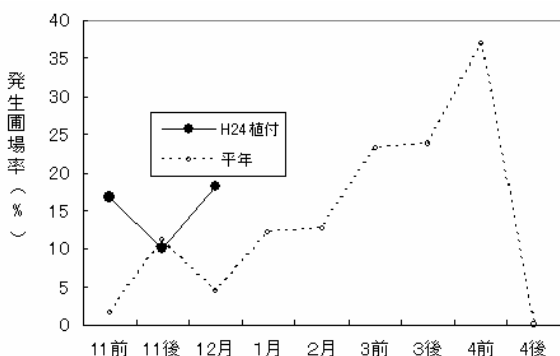


図 ミナミキイロアザミウマ発生圃場率の推移(巡回調査)

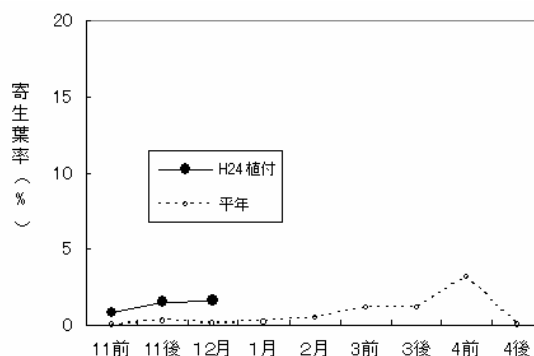


図 ミナミキイロアザミウマ寄生率率の推移(巡回調査)

5. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.4%(1.0%)、発生圃場率は18.2%(34.0%)であった。

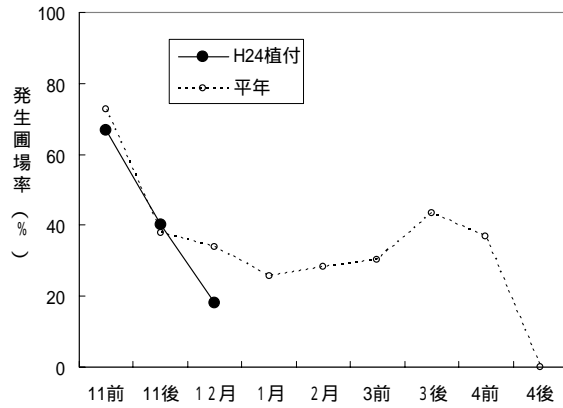


図 キュウリコナジラミ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

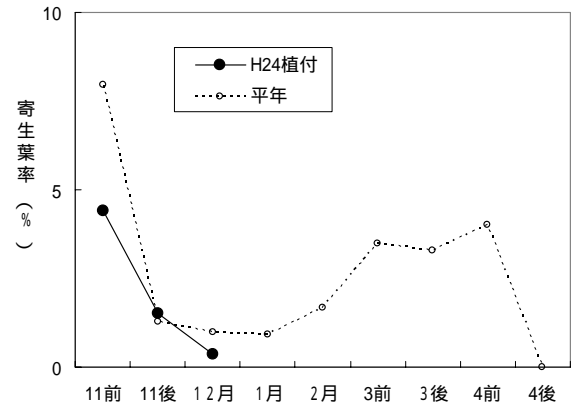


図 キュウリコナジラミ類 寄生葉率の推移(巡回調査)

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病株率は0.3%(過去8カ年平均0.5%)、発生圃場率は9.1%(過去8カ年平均22.2%)であった。

2. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.8%(寄生株率1.4%)、発生圃場率は18.2%(25.0%)であった。

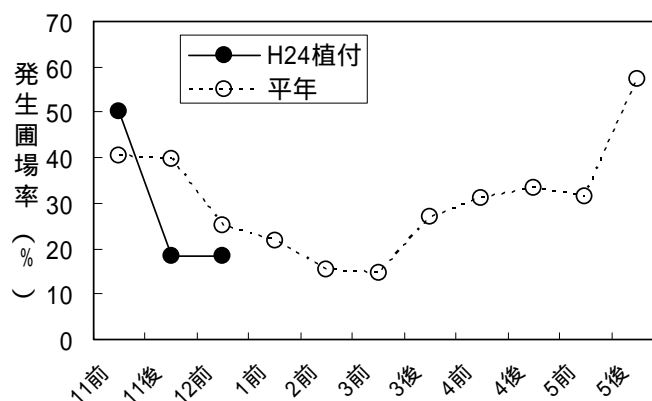


図 トマトコナジラミ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、被害葉率は0.1%(1.5%)、発生圃場率は9.1%(34.2%)であった。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.8%)。

2. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.3%(0.2%)、発生圃場率は46.7%(24.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布は、下葉の基部にも十分に付着するよう丁寧に散布する。

たまねぎ

1. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は1.3%(7.6%)、発生圃場率は20.0%(50.0%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.3%、発生圃場率5.6%)。また、果実での発生も認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.4%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は3.7%(4.2%)であった。

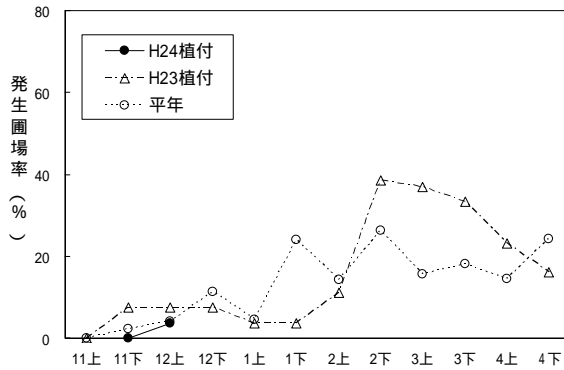


図 いちご 灰色かび病(果実) 発生圃場率の推移
平年: H14 ~ H23の平均値(最大・小値除く)

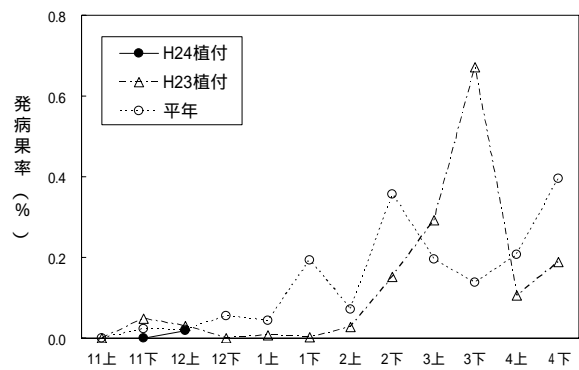


図 いちご 灰色かび病(果実) 発病果率の推移
平年: H14 ~ H23の平均値(最大・小値除く)

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.3%(1.0%)、発生圃場率は7.4%(11.1%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.4%(2.9%)、発生圃場率は22.2%(22.2%)であった。

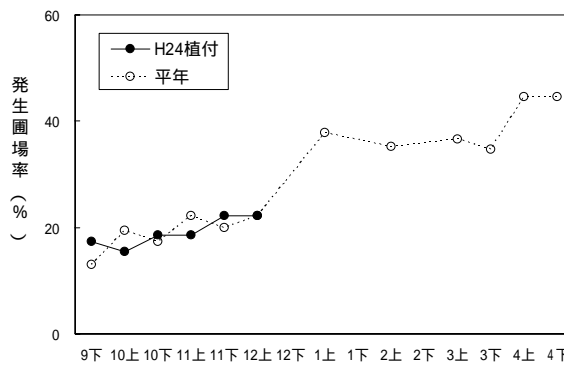


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平年: H14 ~ H23の平均値(最大・小値除く)

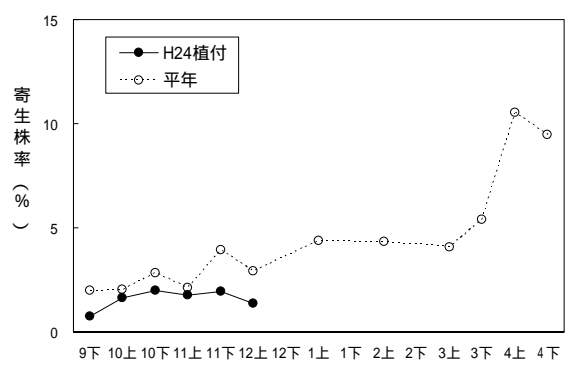


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平年: H14 ~ H23の平均値(最大・小値除く)

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は3.2%(過去5ヵ年平均4.5%)、発生圃場率は25.0%(同8.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐ。

イ 降雨や強風の後にはできるだけ速やかに薬剤防除を行う。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去5ヵ年平均発病株率0.1%、発生圃場率1.7%)。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.7%(過去5ヵ年平均9.2%)、発生圃場率は16.7%(同50.5%)であった。

【参考】

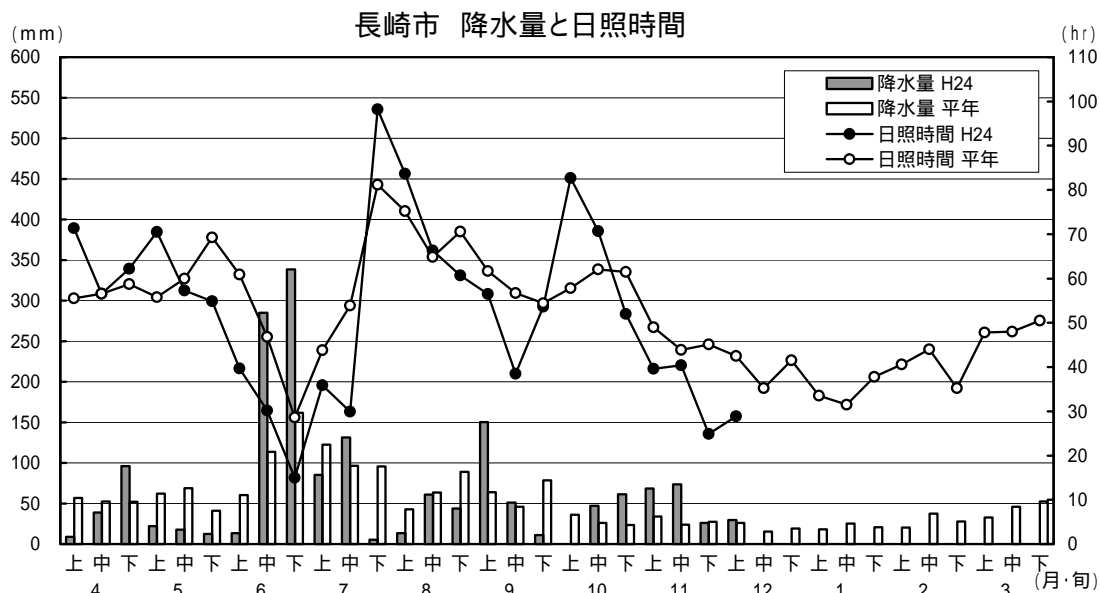
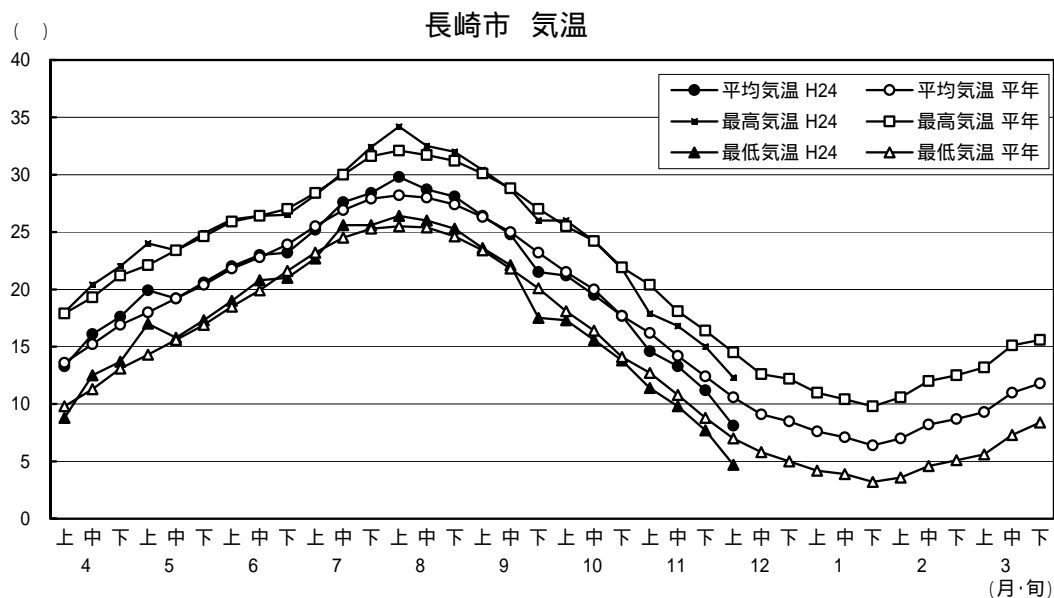
気象 (平成24年12月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	30	20
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

予報対象地域：九州北部地域

平成24年度の気象経過 (長崎海洋气象台)



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027